

(7-Ⅱ) 非鉄金属（電線・ケーブル）

18/17 19/18

◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%

：天気図マーク；



○ 伸び率0～10%

● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成18年度は、通信・電力部門は、これまでN T T・電力会社における設備投資抑制が続いてきたが、老朽設備に対する更新が行われたことから増加する見込み。また、建設・電販部門は、景気の回復基調を受け、民間設備投資や住宅投資の増加により堅調に推移する見込み。自動車部門はアジア向けを中心とした輸出の好調を受け国内自動車生産が増加したことにより堅調に推移する見込み。また、光ファイバはN T TによるF T T H（ファイバトゥザホーム）の進展により、堅調に推移する見込み。一方、電気機械部門は、生産拠点の海外移転など構造的変化が継続しているものの、薄型テレビ等のデジタル家電等が好調であり、堅調に推移する見込み。

今後の見通しとしては、通信・電力部門はN T T・電力による一定程度の維持更新が見込めることから同水準。自動車・デジタル家電は、前年度同様、生産拠点の海外移転などの要因はあるものの、国内景気の回復を受け、引き続き堅調に推移する見込み。建設・電販部門は、景気の回復による企業収益の改善や家計部門への波及による個人消費の増加に伴って、民間設備投資・民間住宅投資の好調が続くと見られ堅調に推移する見込み。また、光ファイバは、N T Tによる光化が引き続き増加すると見込まれ、さらに一部電力、鉄道関連についても需要の回復が予想されることから、堅調に推移する見込み。

(2) 生産・設備稼働

18年度におけるメタル電線の出荷量は、国内景気の回復等を受け、通信、建設・電販を除いたいずれの部門においても増加し、全体としては、+0.6%と4年連続で増加する見込み。光ファイバについても、F T T Hの進展などから、2年連続で増加する見込み。

部 門	メタルケーブル(数量)		
	平成17年度 (トン)	平成18年度 (トン)	18/17 (%)
通 信	19,200	18,957	-1.3
電 力	71,670	74,248	3.6
電気機械	205,523	208,489	1.4
自 動 車	84,625	88,574	4.7
建設・電販	391,336	386,250	-1.3
その他内需	60,222	62,549	3.9
内 需 計	832,576	839,067	0.8
輸 出	33,385	31,776	-4.8
合 計	865,961	870,843	0.6

	光ファイバ(数量)		
	平成17年度 (千Kmc)	平成18年度 (千Kmc)	18/17 (%)
内 需 計	10,443	11,353	8.7
輸 出	9,799	14,720	50.2
合 計	20,243	26,074	28.8

(3) 企業収益

電線主要企業の経営動向（大手6社連結ベース）（単位：億円、%）

平成18年度決算は、光ファイバケーブル及び光関連部品を中心とした情報通信関連製品の需要が増加したことや、銅価の高騰による原材料費の値上げ、デジタル家電関連、自動車関連需要が堅調であったことから、売上高は前年同期比で増加した。損益面でも事業構造改善の実施による人件費削減などの固定費圧縮が効いて経常利益、純利益とも増加した。

19年度については、国内経済の堅調な成長が見込まれることから増収となる見込み。一方収益については、原材料費の高騰の影響等が予想されることから微減となる見込み。

	16年度実績	17年度実績	18年度実績	19年度見込
売上高	34,683	40,310	49,833	50,180
営業利益	1,342	1,962	2,448	2,323
経常利益	1,332	2,104	2,512	2,355
純利益	527	1,164	1,372	1,314
経常利益率	3.8	5.2	5.0	4.7

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

電線・ケーブル製造業の設備投資動向（単位：百万円、%）

	17-18共通回答企業		18-19共通回答企業		18/17	19/18
	17年度	18年度	18年度	19年度		
電線	12,781	10,115	10,115	9,690	79.1	95.8
光ファイバ	868	1,031	1,031	1,304	118.8	126.5

(1) これまでの設備投資の推移

メタル系の電線ケーブルへの投資は景気回復基調を受け、特に平成17年度は、生産能力増強のための投資が行われた。また、光ファイバ及び光関連部品などの情報通信関連製品の需要の回復傾向から、光ファイバへの投資についても、生産能力増強、研究開発への投資が行われた。

(2) 平成19年度の設備投資計画

メタル系電線に関しては、18年度に比べ、生産能力増強のための投資は一段落し、研究開発や更新、維持・補修への投入にシフトする動きが見込まれる。一方、光ファイバ関係について、需要の増加が見込まれることから、18年度に引き続き、生産能力増強、研究開発への投資が引き続き行われ、更に合理化、省力化のための投資も増加するなど、全体としては大きく増加すると見込まれる。

3. 長期資金調達・運用動向

18年度の資金需要はほぼ同水準であった。借入金の償還が進み、内部調達を中心とした資金運用が行われた。19年度は前年と比べ、資金需要は増加する見込みであり、調達動向についても、新規借入金、内部調達ともに増加する見込み。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

